

合言葉は

- ①ぼちぼち
- ②そこそこ
- ③できるしこ

第3夜

9月15日

どうやった？「代表交代」

第3回は、「代表交代」をテーマに、秋吉美千代さん、池田純一さんをお迎えしました。代表というバトンを渡す、バトンを受け取るという、それぞれの立場で見えたこと感じたことをアカツキ2代目代表理事の雪松直子の進行のものと聞きしました。

### 無理のない形を

秋吉さんが、セラピューティック・ケアを始めたのは20数年前の60歳から。2010年にはNPO法人を設立し理事長をずっと務めていました。その理事長を交代したのは昨年。「この年齢でしょ。活動を途絶えさせてはいけないと思って。」と、4～5年前から代表交代を準備されていたそうです。



秋吉美代子さん (認定NPO法人日本セラピューティック・ケア協会前理事長)

代表交代で困ったことを伺うと、新理事長は忙しい方で、秋吉さんとは活動に使える時間が全く違っていたことを挙げられました。しかし同じことを求めるのではなく、使える時間の違いを前提にし、工夫をしている様子をお話されました。

### 一人では決めないことを決めた

池田さんは、前代表から2代目に指名されるもはじめは断ったそうです。その後、理事の間で話し合いを経て交代することになりました。「代表として求められていることは？」との質問には、「求められているよりは求めている。理事4人の意見のとりまとめ役だと思っている」と、いままで代表が1人でやっていたことを分担した



池田純一さん (NPO法人I-DO理事長)

り、毎月1回理事が集まる機会をつくるなど、他の理事3人に意見を求め、「自分一人で決めない」ということを代表になるにあたり決めて、実現しているとのことでした。

### バトンを渡すには、受け取るには

「候補者に断られた場合、ハードルを下げるコツは？」という参加者からの質問には、「分担でしょうね、組織があるので。受ける人がいるいないでなく交代しないといけない」(秋吉)、「他の理事がバックアップしてくれる体制。あと雪松さんという2代目は大変だよねと言える同じ立場の同期がいたことかな」(池田)。参加者からは「理事会が健全に機能しているからこそ世代交代ができていたんだな。」と組織の基盤が重要だといった感想もありました。

「どう交代した?」「交代してどうだった?」の“どうやった?”満載の回でした。(白神 加奈子:アカツキ職員)

### インターンの目!



代表交代と言っても次の代表の決め方は様々なんだなと知りました。また代表交代を公表する時はやはり紙媒体なのかなと思っていたのでFacebookで公表したというのは驚きですが、確かにネットでの公表は同時に大勢の人に知らせることができる点でいいなと思いました。20年代表を務められていた方の次の代表というのとはとてもプレッシャーが大きそうで私だったらそのプレッシャーに耐えられないかもしれません。

(ひろしー竹本 智尋ちひろー:アカツキインターン)



【ご寄付のお願い】本事業は、完全に自主財源のみで行なっています。QRコードからご寄付いただけるありがたいです。

